

■ S3 群 (脳・知識・人間)

10 編 福祉情報

Well-being Information

(執筆：長嶋祐二) [2013年5月 受領]

■ 概要 ■

2007年に65歳以上の人口に占める割合が21%を超え超高齢社会を迎えた日本において、福祉情報分野への期待は大きい。高齢の人や障害のある人をはじめ様々な人にとって、情報福祉の研究の進展は、新たな支援技術を提供できる一つの重要な機会となっているためである。ICT (Information and Communication Technology) は、高度に情報化された社会を生み、新たなコミュニケーション手段の提供、アクセシビリティの確保、情報授受の機会、などを飛躍的に向上させつつある。

一方、急速な情報化社会の進展に伴い、情報家電などの操作が複雑となり、情報技術を使いこなせないために生るデジタルデバインド (digital divide : 情報格差) の拡大が懸念されている。

情報福祉分野における支援機器の研究開発には、人の身体特性、障害の特性、加齢変化による生理機能の変化特性も知っておくことも重要となる。

本編では、基礎理論と実践 (支援技術) 編より構成される。基礎理論では、実際の支援を行うときに必要となる、人の身体機能の計測方法並びに評価手法、障害及び加齢に関する基礎的な知識、コミュニケーション特性、ユニバーサルデザインについて解説する。実践 (支援技術) 編では、障害の種類ごとの支援技術と高齢者支援技術の動向を最近の技術的な話題も含め解説する。

【本編の構成】

本編では、基礎理論の全7章と実践 (支援技術) 編の全2章より構成される。

基礎理論では、1章において人の機能、2章において心理計測と統計的分析手法とその評価手法、3章において生理・神経心理学的研究手法と評価手法、4章において障害の分類と個別の障害の基礎知識、5章において加齢の観点からの人の機能、6章において人のコミュニケーション特性、7章においてユニバーサルデザインの考え方を解説する。

実践 (支援技術) 編では、8章において様々な障害者支援技術を、9章において高齢者の支援技術について解説する。

【S3 群 10 編知識ベース委員会】

編主任：長嶋祐二 (工学院大学)

編幹事：中山 剛 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

渡辺哲也 (新潟大学)

執筆委員：木村貴彦 (関西福祉科学大学)

篠原一光 (大阪大学)

野城真理 (北里大学名誉教授)
山中康弘 (IT バーチャル八尾)
硯川 潤 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
榎本容子 (独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター 研究部門)
間宮郁子 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
畠中順子 (一般社団法人 人間生活工学研究センター)
市川 熹 (早稲田大学)
岡本 明 (筑波技術大学)
伊藤英一 (長野大学)
伊藤和幸 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
梶谷 勇 (独立行政法人 産業技術総合研究所)
梅田真理 (独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所)
石渡利奈 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
東 祐二 (藤元総合病院)